

金陵の鳳凰台上登了

李白

白

鳳凰台上鳳凰遊ぶ

鳳去り台空として江自流了

吳宮の花草幽径に埋れ

晋代の衣冠古邱と成了

三山半ば落つ青天の外

二水中分す白鷺洲

総て浮雲の能く日を蔽ふ為に

長安見えず人をして愁えしむ

【作者】

李白（七〇一〜七六二年）・盛唐の詩人。杜甫と並び称される。蜀（しよく）の錦州彰明県（きんしゅうしょうめいけん）青蓮郷（せいれんきょう）の人で青蓮居士（せいれんこじ）と号した。幼にして俊才、剣術を習い任侠の徒と交わる。長じて中国各地を遍歴し、四十二歳より四十四歳まで玄宗（げんそう）皇帝の側近にあり、のち再び各地を転々とし多くの詩をのこす。安祿山（あんろくざん）の乱に遭遇して、罪を得たがのち赦される。六十二歳病のために没す。

【語釈】

\*鳳凰臺…六朝（りくちよう）の宋の時代に、南京城の西南隅にある山に、美しい鳥がたくさん飛んで来て群舞した、五色のもよう、孔雀のような形、鳴き声の美しいその鳥を時の人は鳳凰と呼び、ここに高台を築いて鳳凰台と名付けたという。 \*江…長江。 \*吳 宮…金陵（現在の南京）に都した三国時代の呉の宮殿。 \*花 艸…花や草。 \*幽 徑…しずかな小道。 くらいい小道。  
\*古 丘…古い丘。 古い墓。 \*三 山…金陵の西南にある山で 長江に臨み南北に三つの峰が並んでいるので三山とよばれる。 \*浮 雲…浮き雲。 ここでは邪臣（じゃしん）。  
\*日…太陽。 ここでは玄宗皇帝。

【通釈】

昔鳳凰が鳳凰台上で遊んだというが、今は台もさびれてしまって、長江の水のみ自然に流れている。三国時代呉の宮殿に咲いた花や草は小道に埋もれ、東晋の時代に豪華な衣冠をまとい、権勢（けんせい）を誇った人達も今では、古い丘の土となってしまっている。

三山は、青天のあなたから半ば落ちかかるように高く峙（そばだ）ち、秦（しん）・淮（わい）の二水は二つに分かれて白鷺洲を挟んで流れている。

《今自分は讒言（ざんげん）にあつて流刑（るけい）の身となり、辺境をさまよっているが》、邪臣（じゃしん）が玄宗皇帝の 賢明さをふさぐように、浮雲が日をおおいかくしているために、都長安の方角もわからず、私の心を悲しませるのである。

【備考】

金陵の名勝鳳凰台を訪ね、昔の栄華のはかなさを感じ、今も変わらぬ自然の美しさに感動し、さらに長安を追放された身を嘆いて作られた詩である。